

オチンカパ ↓ 永山一号川 (その②)

今回の地図は明治二十三年九月二十日に、上川郡に神居・旭川・永山の三村が設置されてから丁度十年目の明治三十三年に測量、明治三十四年製版の第七師団司令部の『上川地方迅速測図』である。

明治三十二年に、鷹栖村近文に、札幌から第七師団の移転が決まり、同年から工事開始、明治三十五年に完成する。この地図はこのよな中で作成された記念すべき地図である。

下の地図は、筆者が執筆した『秋月第一町内会創立四十五年記念誌』の地図で見る秋月地区の変遷の一枚で、説明部分は朱筆で、理解しやすい地図となっている。

さて、掲載地図では、筆者が住む秋月第一町内会は、石狩川の川の中であることが分かる。前回も紹介した、明治二十四年に入地した永山屯田兵屋は、当時の天塩線現JR宗谷本線を挟んで、整然と配置されている。なお秋月連合町内会やオチンカパ(永山一号川)周辺は、西兵村の共有地であったことも判明している。

オチンカパは、前回も紹介したが、永田方正の地名解では、『オチンカパ (Ochin-kapa) — 熊皮を乾す処』であった。そのため、地図の天塩線と、大正十二年に新旭川駅起点の石北線の橋梁名は、永田説から熊皮川であった。

断章 旭川のアイヌ語地名研究

160

高橋 基

掲載地図の石狩川以北は、明治二十五年二月四日に鷹栖村が設置される。石狩川以北の広大な土地であった。地図の解説文のように、明治三十

五年に六号までが、旭川町に編入された。また、旭川村と永山村の境界は、掲載地図の牛朱別川であるが、後に紹介するが、永山二号川と永山三号川は、この牛朱別川の支流である。

なお、『秋月第一町内会創立四十五周年記念誌』は、B五判九十頁で、平成二十五年六月三十日に発行した。翌年の『アイヌ語地名研究会会報五十一号』の書評欄に、まさに谷川健一氏が言うところの「風土学の実践をまざまざと見せつけられた。地域史とはまさにこうあるべきと良き手本の二冊である。一読萬金の書である。」

(総字数は七百二十文字)と評を受けて、旭川市中央図書館はもとより、北海道立図書館、国立国会図書館にも寄贈し、それぞれ収蔵されている。



明治33年(1900年)測量、明治34年製版、『上川地方迅速測図』—第七師団司令部

※毎月第一週に掲載します
(アイヌ語地名研究会幹事)